

第4次「北九州市子ども読書プラン」に係る全事業の進捗状況【A:大変順調、 B:順調、 C:やや遅れ、 D:遅れ】

方針	主要施策	取組内容	事業計画(目標)	R3年度～R6年度 取組実績	進捗状況		次期プランに向けた意見 (本取組の継続・廃止、新規事業の有無など)
Ⅱ 学校における読書活動の推進	①学校図書館・学校図書館職員の利活用の促進	学校図書館が「読書センター」「学習センター」「情報センター」として子どもにとってより利用しやすくなるよう、学校長、司書教諭、学校図書館職員などの連携強化・資質向上、図書館資料の充実、レファレンスサービスの機能の充実などに取り組む。	・良質の図書や図書館資料の収集・整備、郷土資料の充実。	・教科書に応じた図書館資料の購入、蔵書点検を基にした図書館資料の整備 ・郷土資料コーナー設置100%	B	・教科書改訂にあたって、カリキュラムに応じた図書購入が進み、学習に活用できる図書館資料が充実してきている。 ・教科書・郷土資料コーナーは設置してされているが、活用が少ない状況である。	・発達段階に応じて、各教科で活用していくように促していく。 ・蔵書点検を基にした図書館資料の更なる充実を図る。
			・司書教諭等教職員の資質向上 ・学校図書館職員の配置、学校図書館の常時開館、ブックヘルパーの配置継続 ・特別な支援を要する子どもへの読書支援	・研修会を実施し、読書推進活動の充実を図る。 ・学校図書館職員63名の継続配置、ブックヘルパー1000名超の活用 ・特別支援学校における、学校図書館職員による読み聞かせの実施	B	・学校図書館職員・図書館主任合同研修会等を実施することにより、学校内での連携強化を図るとともに、実践発表などで学んだことを生かした取組が各学校で進み、司書教諭等教職員の資質向上につながっている。 ・63名の学校図書館職員を継続配置し、あわせてブックヘルパーを活用することにより、学校図書館の機能の充実を図ることができてきている。	・研修会において、情報交換やディスカッションを積極的に取り入れる等、更なる教職員の資質向上に努める。 ・学校図書館の「学習センター」「情報センター」の機能の充実を図る。 ・特別な支援を要する子どもに応じた図書館資料の充実を図る。
			・司書教諭資格取得の促進	福岡教育大学主催の学校図書館司書教諭講習(8月頃開催)についての周知を行っている。	B	福岡教育大学主催の学校図書館司書教諭講習の開催についての周知を継続し、教員の司書教諭免許取得の促進を図っている。	司書教諭の配置については学校図書館法で定められているため、継続が必要であると考える。
	②学校、学校図書館と市立図書館との連携強化	授業に活用できる図書をパッケージ化した「学校貸出図書セット」の充実などに加え、小学校在学中に市立図書館の見学を行うことや、学校図書館と市立図書館の運用面での連携の検討など、学校、学校図書館と市立図書館との連携の強化を図る。	・「学校貸出図書セット」の貸出、及び拡充 ・図書館司書及び読み聞かせボランティアの学校への派遣 ・小学生の図書館見学の実施・充実 ・図書館カードの発行 ・学校図書館と市立図書館との連携強化(情報交換、イベントや研修の合同実施など)	・学校貸出図書セット;R3年度96セット・貸出76件、R4年度107セット・貸出56件、R5年度109セット・73件、R6年度98セット・61件 ・読み聞かせボランティア派遣;R3年度12件、R4年度56件、R5年度90件、R6年度146件 ・市立小学校の図書館見学;R3年度68校、R4年度93校、R5年度93校、R6年度90校 ・図書館見学の際に希望する学校の児童へ図書館カードの発行 ・学校図書館職員研修会への地区図書館職員の参加。学校図書館職員グループ会議を地区図書館で実施	B	・学校貸出図書セットの貸し出し、図書館司書、読み聞かせボランティアの学校への派遣、図書館見学の受け入れを毎年実施し、コロナ禍後、件数も増加している。 ・毎年5月に学校図書館教育担当課が行う学校図書館教育講習会で各事業の周知を行った。リーフレット「学校向けサービスのご案内」を各学校に配布、教育イントラナビに掲載した。	・学校、学校図書館、市立図書館の連携の強化については、引き続き取り組んでいく。 ・図書館カードの発行については、住所等の確認の厳密化、見学時の発行事務の煩雑さから再考が必要と考える。
	③授業等を通じた読書習慣の形成	学校において、一斉読書時間の設定、担任や学校図書館職員、読み聞かせボランティア等による読み聞かせの実施、学級文庫など本が身近にある環境の整備などを通じ、子どもの読書習慣の形成を図る。	・小・中・特別支援学校での読み聞かせや一斉読書の推進 ・学級文庫などを整備し「身近に本、気軽に読書」を実践する。 ・音読暗唱ブック「ひまわり」を活用した音読暗唱活動の推進 ・子どもの読書活動優秀実践校の文部科学省への推薦	・読み聞かせボランティアやブックヘルパーを活用した読み聞かせを実施する。 ・「学校全体を図書館に」を合言葉に、学校図書館の本を廊下や学年文庫に出し、ミニ図書館を作ることで、「身近に本、気軽に読書」ができる環境をつくる。 ・子どもの読書習慣の形成を積極的に行っている学校を子どもの読書活動優秀実践校として推薦する。	B	・読み聞かせボランティアやブックヘルパーを活用して、定期的に読み聞かせを行うことにより、身近に本を感じることができ、子どもの読書習慣の形成につながっている。 ・学校図書館に足を運ばなかった子どもたちも、ミニ図書館として、廊下や玄関、学年文庫等に本が並ぶことにより、本を手取る機会が増え、読書をするきっかけをつくることができています。	・学校の実態に応じて、年間を見通した読書活動の推進を促していく。 ・ミニ図書館の本の内容の充実を図るとともに、季節や行事などに応じて、本を替えたり、貸し出しができる体制を学校の実態に応じて整えていく必要がある。
	④読書を通じた交流の実施	子ども同士が読書の楽しさを分かち合うため、学校内、学校間でのビブリオバトル、ブックトークの実施などを通じ交流を図る。	・子ども読書会議の開催 ・ビブリオバトル(書評大会)の実施	・令和4年度より子ども読書会議を開催。(参加者R4年度20名、R5年度40名、R6年度60名) ・令和4年度より北九州市子ども読書の日のイベントとして、小倉北区中学校3校によるビブリオバトル発表会を開催。	B	・子ども司書養成講座の開講式後や、ジュニアサポーター全体会議において子ども読書会議を開催し、学校での読書活動を盛り上げるイベント等について話し合った。 ・近隣の3中学校の生徒によるビブリオバトルは、学校間での取り組みのルールが異なるため、各校ごとの発表を行った。中学生や保護者等の参観も多く、盛り上がっている。	子ども読書会議、ビブリオバトルの実施ともに、子ども同士が読書の楽しさを分かち合う取り組みとして有効であり、裾野を広げていくために引き続き取り組んでいく。